

造山古墳発掘調査現地説明会

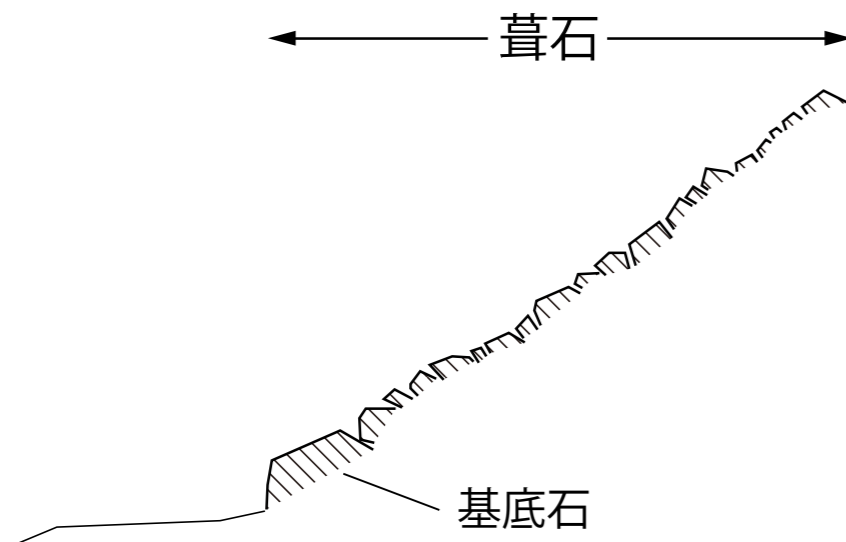
岡山市教育委員会

日時：令和元年12月8日（日）

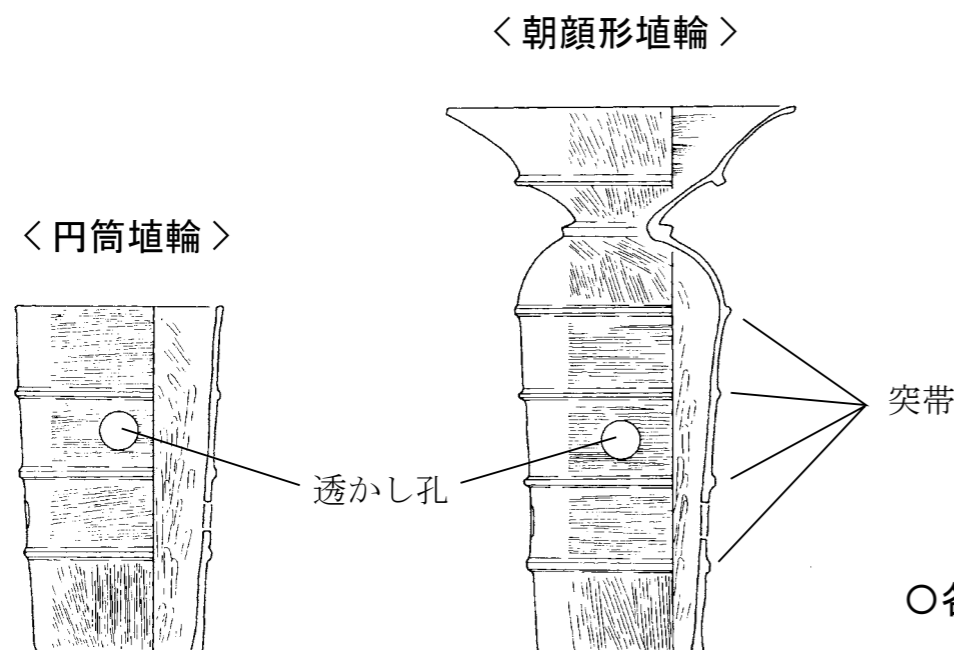
場所：岡山市北区新庄下（発掘現場）

はじめに

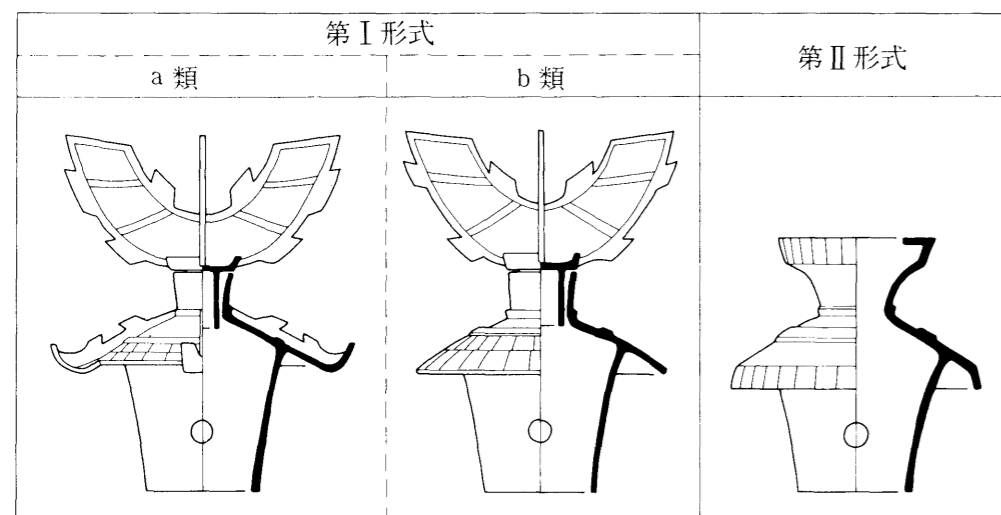
岡山市教育委員会では、造山古墳の範囲確認のための発掘調査を10月下旬より進めてまいりました。このたび調査も終盤にさしかかり、確認された遺構や遺物を一般に公開するはこびとなりました。今回の調査では、造山古墳における前方部側面の墳端の状況を確認する目的で調査区（トレンチ）を設定しています。その結果、前方部1段目の葺石の内容を良好に把握することができました。また、調査に伴い埴輪も出土しています。



○葺石の断面模式図

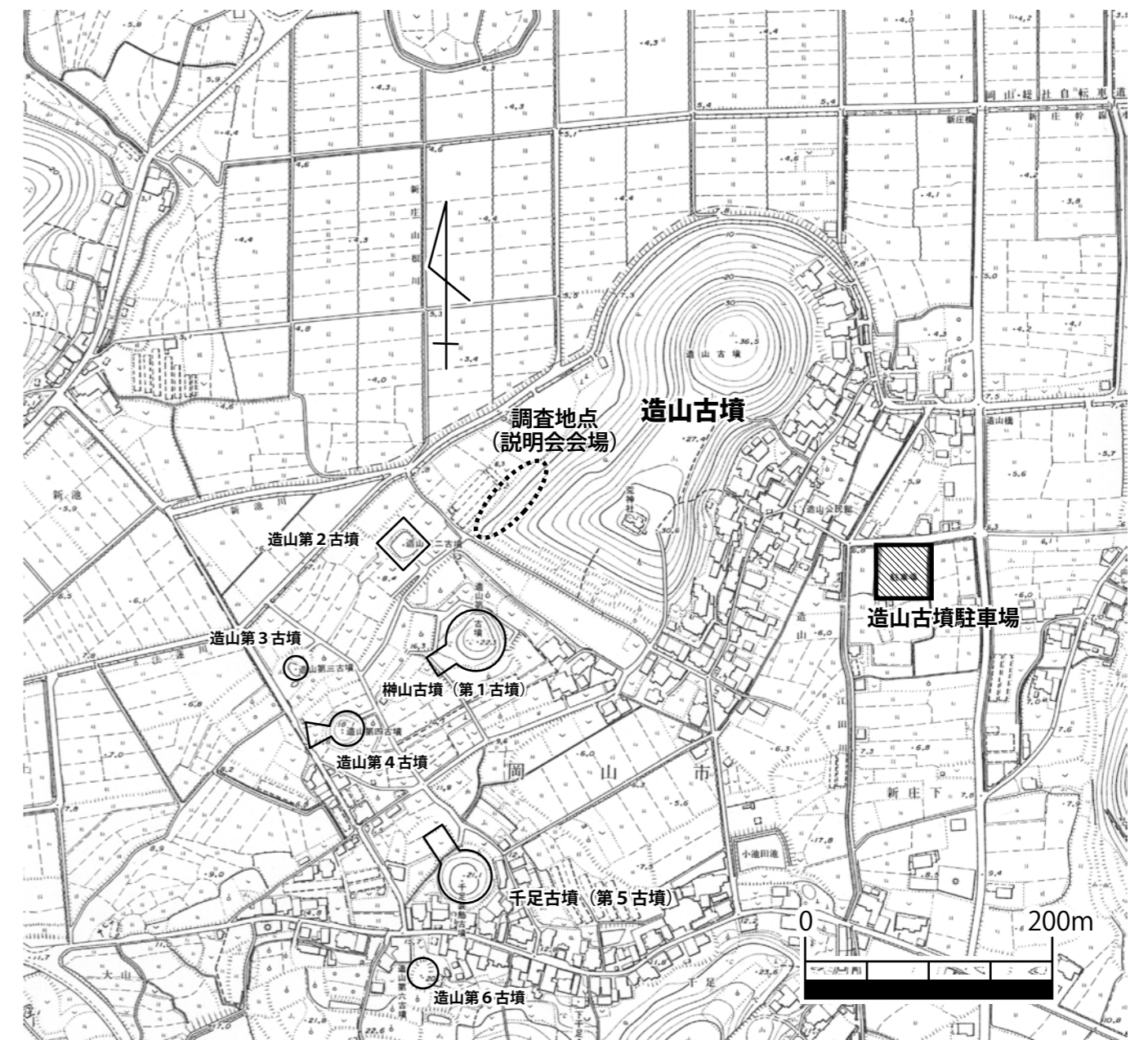


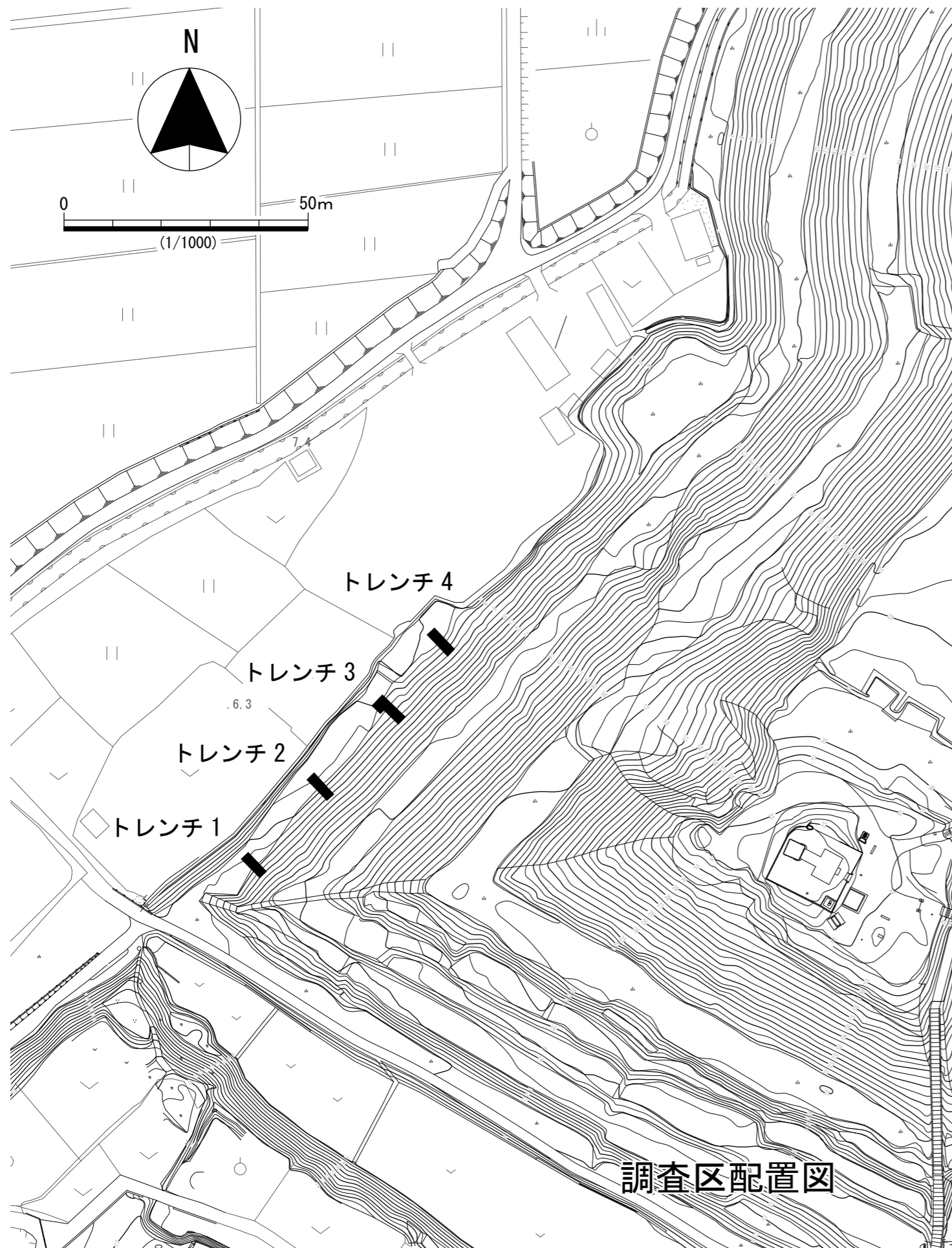
○各種の埴輪の例



○蓋形埴輪の分類

松木武彦 1994「吉備の蓋形埴輪」
『古代吉備』第16集より





造山古墳の概要

造山古墳は全国で4番目の規模を誇る古墳時代中期の前方後円墳です。墳長350m、後円部径200m、同高30m、前方部前端幅215m、同高22.4m、三段築成でくびれ部には造り出しが付属します。主たる埋葬施設や副葬品は不明ですが、前方部の頂上には阿蘇溶結凝灰岩製の石棺が存在しています。また、造山古墳の周辺には6基の陪塚があり、榊山古墳の出土品や千足古墳の石室などからは5世紀の列島内外の地域間において活発な交流があったことがうかがえます。

調査の成果

それぞれの調査区で明らかになった内容を挙げていきます。事前に墳丘測量図などの検討から、築造当初の前方部1段目の様相を比較的とどめていると考えられた部分に今回、4つの調査区を設定し発掘調査を実施しています。葺石の残りの程度は様々ですが、トレンチ3とトレンチ4では基底部分の石材の存在までを確認でき、古墳における葺石の具体的な姿をみることができます。

- ・トレンチ1では、斜面の葺石は削平を受けている部分が多く、残りはあまり良くありません。現在、道となっている平坦部分は、近世以降に造成が行われた痕跡がみとめられます。

- ・トレンチ2もトレンチ1と似たような状況で、葺石も斜面途中で途切れており、基底に近い構造は残っていません。トレンチ1からトレンチ2までの平坦部分は、大きく改変を受けているものと考えられます。

- ・トレンチ3では、築造当時の葺石の状況を良好に把握することができます。葺石の基底石は列状に確認でき、主に30～40cm大の花崗岩の角礫を縦使いしています。それより上方は、基底石よりも小ぶりの石材を使用し、斜面を覆う形となっています。その角度は古墳時代前期の例と比較すると相対的に緩やかになる傾向があります。

- ・トレンチ4においても、葺石の基底石列が確認できました。これは、トレンチ3の基底石列の延長線上に位置します。しかしながら、トレンチ4ではトレンチ3と異なり、基底部分の石材は平置きされています。葺石も墳丘各所によって施工内容に差が生じていた可能性が想定されます。

出土した埴輪に関して

すべての調査区で埴輪が出土していますが、上のテラス部分から流れ込んだ結果だと考えられます。破片は主に円筒埴輪で、蓋形埴輪は昨年も出土しましたが、立ち飾りをもたないタイプがみとめられます。また、埴輪棺の一部とみられる破片も含まれています。テラスなどに樹立された埴輪の詳細についての確認は今後の課題となります。